



CSPI-EXPO 建設・測量生産性向上展2018

出展製品・技術・設備・機器サービスをピックアップ！

※以下は出展社のニュースリリース等から作成しています。詳細は展示会場内の各社ブースでご確認ください。

【TOPICS】話題の出展情報をチェック！

◎話題のICT建機や、被災地へ提供したドローンなどを出展！

■ 株式会社小松製作所 【 小間番号:B70 】

農林業での活躍も期待されるコマツは、「PC200I」「PC78USI」「D61PXI」のICT建機3製品が本展示会に登場。また、先日の西日本豪雨の際に、被災地へ無償で提供した「エブリデイ・ドローン」や、ICTを使い土木工事現場の生産性向上を支援する「スマートコンストラクション」のアプリも出展予定です。これらは、被災状況を容易に把握し、復旧・復興を加速させることが期待されます。



中型油圧ショベル「PC200I-11」

◎日立建機が世界に誇る、最新技術を集結！

■ 日立建機株式会社 【 小間番号:G70 】

海外展開も目指し、「Solution Linkage」の製品を多数出展予定です。「安全性向上」「生産性向上」「ライフサイクルコスト低減」といった課題を解決するICT、IoTソリューションです。7月に発表された狭い環境での作業も可能な13tクラスの新型油圧ショベル「ZX135USX-6」やミニショベル「ZX35U-5B」、スマートフォンによる撮影だけで簡単に土量を計測できる「Solution Linkage Survey」など、最新技術を紹介いたします。油圧ショベル「ZX135USX-6」は、ブース内でVR動画体験が可能です。



3D施工データに従って機械のフロントを半自動で制御できる「Assist ZX135USX-6」

◎危険を体験！恐怖心で安全活動を促すVRが登場！

■ 株式会社アクティオ 【 小間番号:B5 】

建設現場において人命を守るために重要な安全教育および安全訓練がVRで体感できる「Safety Training System VR of AKTIO」。建設業の労働災害で最も高いシェアを占める高所作業からの墜落事故を想定し、“恐ろしい事故を疑似体験”することで、現場で不安全行動をとらないようにするVRシステムを本展示会で体験いただけます。

その他、従来チェーンソーと人の手で伐根してきた街路樹の根を切る「根こそぎ切るソー」や、搭載型安全装置の「スリーエスバックホー」なども展示予定です。



建設現場の安全訓練に向けた新VRシステム

「Safety Training System VR of AKTIO」

【TOPICS】女性も活躍！スマート化！…建設現場で働き方改革

■ 京都サンダー株式会社 【 小間番号:A55 】

「建設ディレクター」という新しい職域を提案し、建設業界でも女性が活躍できるようにサポートする京都サンダー。「建設ディレクター」とは、「IT」と「コミュニケーション」それぞれのスキルで、オフィスから現場支援を行う、建設業における新たな職域で、事務所内で働く女性がITを活用して、リアルタイムで現場をサポートします。この取り組みは、労働力不足の解消だけでなく、現場担当の長時間労働の軽減、生産性の向上が期待されており、会場内では、「建設ディレクター®ー育成講座」を実施予定です。

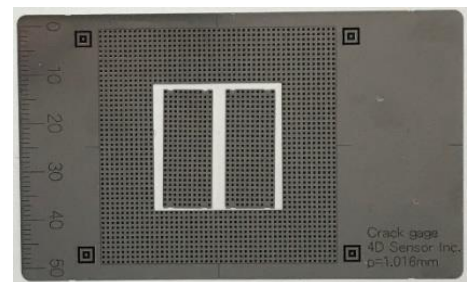
■ 昭和コンクリート工業株式会社 【 小間番号:D35 】

現場で作るのではなく、事前に工場で作成し、現場に運搬する「プレキャスト化製品」の導入により、工期短縮・省力化を実現する昭和コンクリート。特殊で大型な物件であっても、プレキャスト化を可能にする技術を紹介します。

【TOPICS】道路の陥没、橋の落下…日本のインフラ整備に対応する製品！

■ 4Dセンサー株式会社 【 小間番号:I30 】

本展示会では、インフラのき裂幅の増減を μm の精度で計測するインターネットシステム「4D Sensor for Crack」や変位分布・ひずみ分布計測装置である「4D Sensor for Material Test」を実際に体験していただけます。大学での研究成果を実際に社会で活かし、貢献する、和歌山大学発のベンチャー企業による最新技術をお試しください。



き裂計測に用いる格子

■ バンプレコーダー株式会社 【 小間番号:J61 】

スマートフォンを車のダッシュボードに固定して走るだけで路面性状計測が簡単・高品質に計測できるスマートフォンアプリ「BumpRecorder」、そしてその計測データは約10分で解析・地図上で確認できます。「BumpRecorder Web」を使用することで、この製品は公共工事の舗装路面の施工前後の平坦性段差やIRIを算出するための路面の縦断プロファイルなどの測定に適用されます。



走るだけで路面状態が計測できる「BumpRecorder」

計測したデータを地図上で確認できる

「BumpRecorder Web」

■ 三井住友建設株式会社 【 小間番号:E12 】

供用中の橋梁の状態を点検する際に活躍する、橋梁を自動で点検する自走式の「橋梁点検ロボットカメラ」を出展。この技術により、地上から梯子や脚立を立てて接近、または橋梁点検車の使用が不要となり、カメラ設置後は撮影と移動の一連の作業が自動で行います。また、カメラに付いている照明(LED)を照射することで、暗所での点検が可能になっています。



懸垂型点検ロボットカメラによる

PC橋点検状況「橋梁点検ロボットカメラ」

■ 西松建設株式会社 【 小間番号:G2 】

昨今、様々な豪雨・地震・火山噴火などによる土砂災害のリスクが高まる中、インフラ施設の斜面部分の点検・監視が重要視されています。傾斜監視クラウドシステム「OKIPPA」は小型センサーボックスを傾斜監視したい箇所に設置するだけで、無線通信により、クラウドサーバへ転送され、パソコンやスマートフォン等で、いつでもどこでも確認することが可能な、長時間利用の可能な製品です。



傾斜監視クラウドシステム
「OKIPPA」



【TOPICS】「体験可能な製品」や「ドローン」など、建築・測量の「今」がわかる！

◎会場内のブースで製品・サービス！

■ サイテックジャパン株式会社 【 小間番号:B51 】

土砂等の積込作業を的確な重量コントロールで過積載を防止しながら、生産性向上を実現する荷重判定システム「Trimble LOADRITE Payload System」を始めとするさまざまな製品のシミュレータ体験が可能です。

■ 福井コンピュータ株式会社 【 小間番号:G5 】

現況の点群データをVR再現し、工事の着工前に2次元図面では気付かなかった問題点を3D空間上で確認できる建設バーチャルリアリティシステム「TREND-CORE VR」が本展示会に登場！2018年秋のリリース前にいち早くお試しください。



建設バーチャルリアリティシステム
「TREND-CORE VR」

◎水害・地震などの天災対策に特化した世界に誇る技術！

■ 株式会社フジタ 【 小間番号:G51 】

バックホウの運転席に装着し、安全な場所から遠隔操縦できる重機の遠隔操作システム「ロボQS」が登場！当日は、シミュレータで遠隔操作を実際に体験できます。

■ 株式会社尾鍋組 【 小間番号:F39 】

一般的に使われているセメントや杭を使わず、砕石（小さく砕いた自然石）だけを用いて行う地盤改良技術「エコジオ工法」。地震時に発生する地盤の液状化にも効果が期待できるその「エコジオ工法」をブース内にて紹介します。



エコジオ工法

◎建機を用いた実演デモ・シミュレーション体験！

■ コベルコ建機株式会社 【 小間番号:B6・D2 】

遠隔操作システム「K-DIVE」、自動車解体業界にもイノベーションをもたらす「K-LAB.」など3つの製品が本展示会で初披露。実際に会場でご覧いただけます。

■ 株式会社トプコン 【 小間番号:G52 】

「i-Construction®」をテーマに働き方改革を支援しているトプコンが、革新的な技術の導入や、3Dデータの利活用で、i-Construction に貢献する付加価値を提案。屋外展示場では、新世代 3D-MC/MG ショベルシステム X-53x の実機を展示し、実演デモを行います。

ショベルシステム X-53x



◎作業効率アップなアプリ・ツール！

■ 株式会社MetaMoJi 【 小間番号:A20 】

株式会社大林組と共同で開発した建設現場で多くの方に使われている「野帳」をデジタル化したアプリ「eYACHO」！自由な手書き、音声や写真、動画を活用して現場の状況を記録することができます。当日は、導入によるワークスタイルの改革、大幅な時短に成功した事例を紹介し、実際に体験することが可能です。



図面管理・情報共有システム
「SpiderPlus」

■ 株式会社レゴリス 【 小間番号:E11 】

人手不足による人件費の高騰、少ない女性労働者など、様々な問題を抱える建設現場で「現場への荷物減少」「作業員の人員削減」「事務所作業の時間削減」へ繋がる図面管理・情報共有システム「SpiderPlus (スパイダープラス)」を出展します。

◎空中から読み取る、最新測量技術！

■ 株式会社CSS技術開発 【 小間番号:A1 】

5方向を同時に撮影することができるドローンに搭載可能なオブリークカメラを本展示会にて初めて発表！本製品は、短時間で正確な3Dモデルを作成することができ、「空からの測定に革新をもたらす」製品として注目されています。従来のオブリークカメラの大きさや重量、ドローンに搭載可能なカメラの鉛直部分の撮影の難しさ、飛行時間の長さといった様々な問題に対応した注目の製品が会場でご覧いただけます。



5方向を同時に撮影可能な「オブリークカメラ」